

『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式について
—ABB型を中心に—

The Research of Adjective Reduplication in *A Dream of Red Mansions*
in the First 80 Chapters, Taking the ABB-centered as the Main Study

胡 春艷
HU Chunyan

要旨

本稿は、『紅樓夢』前八十回を言語資料として、その ABB 型形容詞重疊式について統計するうえで、語構成、統語論、意味論から考察し、通時と共時の両方面から分析処理を行う。『紅樓夢』前八十回における AAB 型形容詞重疊式の使用状況及び特徴を明らかにすることを目的とする。

キーワード

『紅樓夢』 形容詞 重疊式 ABB 型

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の統計的研究
4. 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の特徴
5. 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の通時研究
6. 終わりに

1. はじめに

中国語は形態の特徴を欠くことから、重疊 (reduplication) はその代表的な言語手段として注目される。中でも、形容詞重疊式および動詞重疊式が主要なテーマとして研究されている。形容詞重疊式のパターンは AA 型、ABB 型、ABAB 型、AABB 型、ABAC 型などである。その ABB 型は AA 型、AABB 型、ABAB 型の「完全復疊」¹に対し、「不完全復疊」と称され、独特な性格を持っている。

『紅樓夢』は、近代中国語が現代中国語に向かう過渡的な代表的言語資料²であり、清代中期から後期にかけての北京官話教科書として位置付けられるもので、前八十回は曹雪芹の作、後四十回は後人の補作であるとされる。当時の北方社会における言語の実態を反映している。形容詞重疊式のうち、ABB 型は用例が豊富で、特にある語例は、最初に『紅樓夢』に見えろと考える。本稿では、『紅樓夢』前八十回における ABB 型形容詞重疊式を分析し、その使用状況及び特徴を明らかにする。

テキストは庚辰 (1760 年) 過録本を底本とする人民文学出版社刊 (2008 年) 『紅樓夢』を用いる。同書校注は中国芸術研究院紅樓夢研究所に依る。

2. 先行研究

王力 (1943/1985 : 298-299) は、ABB 型形容詞重疊式について、疊字が形容詞の後に付き、意味を添加しないで、レトリック上重要であると指摘している。

黎錦熙(1959:72, 88)は、中国語の語構成を三類六型に分ける。そのうち、第二類の形態構造(派生語)に重畳式があり、ABB型は重畳式の「疊形」に属し、「泛疊後附成三法」と称する。この構造方法は、近古中国語の一種の造語法で、元曲に最もよくあり、今でも流行し、創造するものが多いと指摘している。

呂叔湘(1980:722-730)は、「形容詞生動形式表」の表2に、主に北京口語のABB型形容詞重畳式を297例収録している。

張美蘭(2001)は、唐五代から清の末の近代中国語のABB型形容詞重畳式を1400語余りを収録している。

文昌榮(1997)は、ABB型を「描摹詞」と称し、2000語余りのABB型を収録し、語源も示す。

本稿は、先行研究を踏まえて、主に張美蘭(2001)と文昌榮(1997)の語釈を参考にしながら、『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式の特徴を検討する。

3. 『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式の統計的研究

3.1 研究対象

本稿の研究対象は、『紅樓夢』前八十回におけるABB型であり、文成分と語義が形容詞に合致する重畳式である。「嗶拉拉、忒楞楞、嘩啾啾、噯啾啾、哎啾啾、豁啾啾、豁刺刺、忽喇喇」などの擬声語は、張美蘭(2001)の『近代漢語後綴形容詞詞典』に収録されるが、本稿では研究対象には含めない。

3.2 統計研究

オノマトペを除いて、『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式は、異なり語数64、延べ語数123である。以下に特徴と使用状況を具体的に分析する。

4. 『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式の特徴

4.1 『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式の語構成

張美蘭(2001:10-17)は、邵敬敏(1990)を踏まえて、近代漢語のABB型形容詞重畳式を構造分析方式によって、以下の4種類に分ける。

- (1) A + BB → ABB [重疊後綴附加式(接尾辞が重疊する附加式)]
- (2) AB + B → ABB [後重疊擴展式(後置成分が重疊する拡張式)]
- (3) BA + B → ABB [前重疊倒置擴展式(前置成分が重疊し、倒置する拡張式)]
- (4) AABB - A → ABB [雙音重疊前略式(雙音重疊する前置成分のAを省略する式)]

(1)は、代表的な構造形式で、張美蘭(2001:10)は「この形式は、近代漢語ABB式形容詞の重要な源である。」と指摘している。『紅樓夢』におけるABB型形容詞重畳式は、以上の4種類を含んでいる。そのうち、(1)類の語例は最も多い。以下個々に具体的に分析する。

4.1.1 A + BB → ABB [重疊後綴附加式]

張美蘭(2001:10)は、このタイプについて、ABあるいはBAは語にならず、対応するAABB、ABAB、BABAの形式も存在しないと指摘している。よって、CCLコーパスとBCCコーパスで、ABあるいはBAを検索し、『紅樓夢』の成書年代以前に、ABあるいはBAは一つの語として使用できない場合、「A + BB」に属すると考える。『紅樓夢』における「A + BB」のABB型形容詞重畳式は、41例である。

4.1.1.1 Aの特徴

「A + BB」は、単音節語素Aと重疊語素BBと組み合わせることで、ABB型形容詞重畳式を構成すると見なされる。大部分のAは、単独で語として使用できる。『紅樓夢』における「A + BB」のAは、品詞によって、以下の3種類に分けられる。

- (1) Aは形容詞語素である。たとえば、「亂烘烘、白茫茫」などの25語がある。
- (2) Aは名詞語素である。たとえば、「意懸懸、氣昂昂、光燦燦、汗津津、意綿綿、油汪汪、牙癢癢、氣狠狠、眼睜睜」の9語がある。

(3) Aは動詞語素である。たとえば、「笑吟吟、赤條條、笑嘻嘻、笑炊炊、喘籲籲、醉醺醺、怔呵呵」など7語がある。

形容詞語素のAは、五感との繋がりを示す感覚形容詞が多い。北原(2010:29)は、五感は、外界の事物を認識する五つの感覚、つまり視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚のことだが、これらはそれぞれ、五感、つまり目・耳・鼻・口・皮膚の五つの感覚器官によって、知覚されて人の内側に入ってくると指摘する。趙青青(2021:208)は、視覚を「色、光線、空間、情状」に、触覚を「温度、硬度、鋭さ、湿度、平滑度、強度、痛さ」に分ける。本稿では、趙氏の分類を踏まえて、「A + BB」のABB型形容詞重畳式を、Aの五感によって、次のように分ける。

視覚：色：白茫茫、白漫漫、黑魑魑、白汪汪、烏壓壓、黑鬢鬢、錦重重、金晃晃、黃澄澄、碧熒熒。

光線：明晃晃 空間：直瞪瞪 空落落 情状：亂烘烘

聴覚：鬧穰穰 嗅覚：なし 味覚：甜絲絲、鹹浸浸

触覚：温度：涼森森、熱刺刺、熱騰騰、冷颼颼 強度：鬆怠怠、沉甸甸

そのうちの「好端端」「惡恨恨」の「好」と「惡」について、李勁榮(2014:55)、趙青青(2021:208)は、主観的に、一つの感覚器官によって感知しにくい「知覚」と見なされる。山梨(2012:101、106、109)によれば、日常言語の概念体系は、われわれの身体に関わるさまざまな経験を反映しており、五感や体感に関わる感覚は、人間の身体的な経験の中でも特に中心的な役割を担っている。目、耳、鼻はこの種の感覚に関わる器官の代表例であると指摘する。即ち、視覚は最も感知しやすく、その中の色に関する形容詞は、最も感知しやすい代表的な事例である。次に、聴覚と嗅覚に関する形容詞について、『紅樓夢』における「A + BB」型形容詞の「A」は、五感のプロセスに基づき、使用例は、視覚、聴覚、嗅覚に集中している。

4.1.1.2 BBの特徴

これまで、BBは接辞かどうかについて、論述がなされている。黃伯榮(1991:257)は、接辞は実際的な意味を持たず、固定的な位置付け、単独では一つの語にならないと指摘している。李勁榮(2014:34-36)は、BBとAを組み合わせて本来の意味を持つこと、同じAでもBBによってABBの意味が異なること、同じBBは多数のAと組み合わせることができること、以上の三つをBBが接辞になる基準と見なす。

したがって、このタイプの41例中、BBが接辞であると認められるのは、「亂烘烘」「黃澄澄」「沉甸甸」「鹹浸浸」「熱刺刺」「鬧穰穰」の6例にとどまる。「亂烘烘」「黃澄澄」「沉甸甸」「鹹浸浸」「鬧穰穰」は、「亂哄哄」「黃橙橙」「沉鈿鈿」「鹹津津」「鬧嚷嚷(攘攘)」とも表記され、BBの機能は表音であると見なされる。「熱刺刺」のほかに、「火刺刺、氣刺刺、焦刺刺、歪刺刺、羞刺刺」などの語があることから、「刺刺」は接辞と見なされる。邵敬敏(1990:21)は、BBの組み合わせの範囲が狭いほど、意味の虚化程度が低く、BBの組み合わせる能力が強いほど、相対的に意味の虚化程度が高いと指摘している。

4.1.2 AB + B ⇒ ABB [後重疊擴展式]

このタイプのABは形容詞として、『紅樓夢』の成書年代以前に使用され、ABのBの重疊を通して、ABB型形容詞重畳式を形成する。『紅樓夢』における「AB + B」のABB型形容詞重畳式は、以下の15例にとどまる。

——昏慘慘、威赫赫、靜悄悄、花簇簇、冷清清、忙碌碌、油膩膩、明亮亮、羞慚慚、跳躑躑、情切切、直挺挺、寒浸浸、氣恨恨、直蹶蹶

そのうち、「冷清清」「油膩膩」「靜悄悄」などは、同時にAABB型の形容詞重畳式「冷冷清清」「油油膩膩」「靜靜悄悄」も存在する。

4.1.3 BA + B ⇒ ABB [前重疊倒置擴展式]

BAは形容詞として、『紅樓夢』の成書年代以前に使用され、BAは語序を倒置し、BAのBの重疊を通して、ABB型形容詞重畳式を形成する。『紅樓夢』における「BA + B」のABB型形容詞重畳式は、以下の5例にとどまる。

——亂紛紛（紛亂）、鬧吵吵（吵鬧）、硬幫幫（幫硬）、散鬆鬆（鬆散）、白花花（花白）

4.1.4 AABB - A → ABB [雙音重疊前略式]

このタイプは、AB と BA が単独では、一つの語にならない。AABB 型形容詞重疊式は、基式（基本的形式）として、一つの A が省略され、ABB 型形容詞重疊式を形成する。用例は以下の 3 例にとどまる。

——顛巍巍（顛顛巍巍）、蕩悠悠（蕩蕩悠悠）、戰兢兢（戰戰兢兢）

「戰兢兢」の「戰戰兢兢」の初出は『詩經』に遡る。

「顛巍巍」の基式「顛顛巍巍」も『紅樓夢』に出現する。

4.1.5 ABB の構造形式

A と BB の関係について、石鏡（2010:241）は、元明清時代の ABB 型形容詞重疊式を添加式（紅彤彤）、重疊式（慌張張）、接辞式（黑洞洞）、主述式（淚汪汪）に分ける。李勁榮（2014:37）は、ABB 型形容詞重疊式を派生式、後補式、主述式に分ける。本稿は、李氏の分類を踏まえ、『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の分類を試みる。

（1）主述式 A は主に名詞性語素で主語になり、BB は述語になり、共に主述式になる。たとえば、「意懸懸」「氣昂昂」「汗津津」「意綿綿」「油汪汪」などである。

（2）派生式 BB は接辞となり、A と共に派生式になる。たとえば、「亂烘烘」「黃澄澄」「沉甸甸」「鹹浸浸」「熱刺刺」「鬧穰穰」などである。

（3）後補式 A は主な意味を表し、BB は A の意味を補足する。たとえば、「亂烘烘」「白茫茫」「甜絲絲」「空落落」「白漫漫」などである。

4.2 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の文成分

石鏡（2010:238）は、元明清に、ABB 形容詞は主に、連体修飾語として、次は連体修飾語、それから述語とする。補語になる例が少ないと指摘している。表 1 は『紅樓夢』前八十回における ABB 型形容詞重疊式の文成分を示したものである。

表 1 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の文成分

文成分 形式	連用 修飾語	連体 修飾語	補語	述語	主語	目的語	独立 成分
使用例	72	20	2	19	2	4	4

『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の文成分を考察した結果は、石氏の観点と大むね同じである。

4.3 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の意味分析

4.3.1 描写性

李勁榮（2014:50）は、ABB 型形容詞重疊式は、主に BB の機能を通して、生き生きとした描写性をもたらすと指摘する。趙青青（2021:212）は、共感覚メタファーの視点から、A と BB は異なる感覚で感知する場合、ABB 型形容詞重疊式の描写性が強いと指摘している。趙氏は、ABB 型の全体の共感覚メタファーではなく、内部の A と BB の感覚から分析する。勿論、A と BB は、さまざまな感覚的体験によって、A よりも豊かな意味になり、生き生きとした描写性も増す。次の例文を見てみよう。

①小燕接著揭開，裡面是一碗蝦丸雞皮湯，又是一碗酒釀清蒸鴨子，一碟醃的胭脂鵝脯，還有一碟四個奶油松瓢卷酥，並一大碗熱騰騰碧熒熒蒸的綠畦香稻粳米飯。（第 62 回：p858）

「熱騰騰」は「形容熱氣上升の様子。（熱気が立ち上る様を形容する。）」「近代漢語後綴形容詞詞典」によれば、「熱」は触覚から感知され、「騰騰」は視覚的なイメージを与えるとする。そこで、視覚から触覚への共感覚メタファーのプロセスを通して、熱々のご飯を生き生きと描写する。

②一把上面鑿著一"鴛"字，一把上面鑿著一"鴛"字，冷颼颼，明亮亮，如兩痕秋水一般。(第66回：p921)

「冷颼颼」は「形容風冷或寒氣逼人。(風がとても冷たい。あるいは寒さが身にしみる。)」(『近代漢語後綴形容詞詞典』)という意味で、文昌榮(1997)は「冷嗖嗖、首見于元曲。形容寒冷。颼颼，風聲。(冷嗖嗖、最初に元曲に見える。寒いことを形容する。颼颼は、風の音である。)」と記す。「嗖嗖」は擬声語で、聴覚から触覚への共感覚メタファーのプロセスを通して、ぞくぞくとした寒気をいきいきと描写する。

4.3.2 量の程度性

沈家煊(1995:376)は、性質形容詞は「量幅(量の幅)」あるいは「無界」を表し、「雪白」と「灰白」などの状態形容詞は「量幅(量の幅)」の中の一つの点を表し、量点と呼ぶと指摘している。形容詞重畳式は、状態形容詞に属し、程度の尺度軸で量を固定される。ABB型形容詞重畳式も量化手段とする。

賈彥德(1988:40)は、「臭乎乎」と「臭烘烘」を比較し、「臭乎乎」より「臭烘烘」のほうが量の程度性が高く、BBは両方の程度の高低を決めると指摘する。『紅樓夢』における同じAのABB型形容詞重畳式は、「白茫茫、白漫漫、白汪汪、白花花」「笑吟吟、笑嘻嘻、笑吹吹」「黑鬢鬢、黑魃魃」「鬧吵吵、鬧穰穰」の四グループである。

「白花花」の基式「花白」で、「白く輝くさま」という意味で、『紅樓夢』では「銀」を修飾する。「白茫茫」は、雲、霧、水のぼんやりとした様を表す。「白漫漫」「白汪汪」は「一面に白いさま」を表す。量から見れば、「白花花」>「白漫漫、白汪汪」>「白茫茫」というニュアンスの違いのあることが分かる。

また、「黑鬢鬢」は、髪の色を形容し、「黑魃魃」は、うすぼんやりした姿を形容する。ことから、量の等級で、「黑鬢鬢」>「黑魃魃」であることが分かる。

「笑吟吟、笑嘻嘻、笑吹吹」のBBは擬声語で、擬声語のラウドネスによって判断する。李勁榮(2014:144-147)は、音のラウドネスが高いほど、量の等級も高いと指摘する。また、開口の度が高いほど、音のラウドネスが高い。そこで、開音節の「笑嘻嘻、笑吹吹(xiao xi xi)」の量は、閉音節の「笑吟吟 xiao yin yin」より高いと判断される。しかし、以上の方法で、区別しにくい語があり、たとえば、「鬧吵吵」と「鬧穰穰」は、やかましいさまを表し、量の等級を区別しにくい。今後、検討することにした。

4.3.3 主観性

朱德熙(1982) 沈家煊(2015) 王安(2019)は、形容詞重畳式は話者の主観を反映すると指摘する。以下、主に二方面から『紅樓夢』におけるABB型形容詞の主観性を分析する。

(1) 五感から認識されること

北原(2001:29、43)は、五感から認識される形容詞を「感覚形容詞」と呼ぶ。また、感覚形容詞について、主観と客観の二面的表現で、「まぶしい」はその人がそう「感じる」こと、つまりその人の主観を表し、「まぶしい輝く光」などの「まぶしい」はその光の属性を表して、客観的な表現になる。『紅樓夢』におけるAの「感覚形容詞」は23例があり、ほぼ総数の三分の一を占める。例文を見てみよう。

③那盒内一樣是一寸來大的小餃兒。賈母因問什麼餡兒，婆子們忙回是螃蟹的。賈母聽了，皺眉說：“這油膩膩的，誰吃這個！”那一樣是奶油炸的各色小面果，也不喜歡。(第41回：p550)

③の「油膩膩」は、「蟹の餡の餃子」の属性を表すというより、むしろ賈母が「蟹の餡の餃子」に関する味覚からの感じを表し、主観性を持っている。

五感と繋がるABB型形容詞重畳式は、観察者の五感体験から、その人の感じを表すことが多く、主観性の特徴をもっている。

(2) 観察者の認知操作

王安(2019:16、19)は、重ね型を用いることで、客体側における属性・特徴が概念化者と関わる形で主体的に解釈されるようになり、状態であるかのように捉えられ、主体化が起きており、その「主観性」の本質は、概念化者の認知操作の顕在化を反映する主体化のプロセスであると指摘する。

ABB型形容詞重畳式は、いつもBBを通して、観察者の認知操作が反映され、観察者の主観的な感性を表す。

たとえば、「白茫茫、白漫漫、白汪汪、白花花」は、すべて「白」の属性であるが、観察者は「茫茫、漫漫、汪汪、花花」を通して、異なる認知を反映する。例えば、

④好一似食盡烏投林，落了片白茫茫大地真乾淨！（第5回：p86）

⑤如此親朋你來我去，也不能勝數。只這四十九日，甯國府街上一條白漫漫人來人往，花簇簇官去官來。（第13回：p175）

⑥大門上門燈朗掛，兩邊一色戳燈，照如白晝，白汪汪穿孝僕從兩邊侍立。請車至正門上，小廝等退去，眾媳婦上來揭起車簾。（第14回：p184）

⑦銀庫上按數發出三箇月的供給來，白花花二三百兩。賈芹隨手拈一塊，摺予掌平的人，叫他們吃茶罷。（第23回：p309）

④の「白茫茫」は、「大地」を修飾し、観察者の視点は、地面に近く、雲、霧、雪などのありさまを修飾し、ぼんやりとした感じを表す。

⑤の「白漫漫」の「漫漫」は、「廣大貌；無涯際貌；煙、雲、雪、霧、草木等遍佈貌。」（『漢語重言詞詞典』）という意味で、他に「白漫漫」「綠漫漫」「翠漫漫」などの類義語があり、『漢語重言詞詞典』では「形容一片白色」「形容一片綠色」「形容一片青綠色」と解釈する。「漫漫」は「一面」の意味で、観察者は、近くから遠くまでの広い視点で認知する。この場面では、白の喪服を着る人が多いため、甯國通りは、観察者が目に触れる限り、あたり一面の白いさまであることを形容する。

⑥の「白汪汪」は、『紅樓夢』が初出である。『紅樓夢』以前の「汪汪」は「水深廣貌」「液體盛滿貌」「水光蕩漾貌」（『漢語重言詞詞典』）と解釈され、「水汪汪」「泪汪汪」などは、すべて液体と繋がりがあがる。この場面では、鳳姐は甯國府の正門から入って、白づくめの喪服を着用した従僕たちを見る情景を描写する。鳳姐が両側の従僕たちから通す視点から、両側の提灯が昼のように照り映え、喪服を着用した従僕たちに反射するさまは、あたかも水面に反射したかのような視覚的な印象になる。曹雪芹が「白汪汪」を使用する一因であるだろう。

⑦の「白花花」は、白く輝く銀を形容する。観察者の認知視点は、光っていることに焦点を当てる。

以上からわかるように、Aは同じで、BBにより観察者の個人的な認知を通して、焦点が異なり、主観性を表し、BBの異なる認知操作を通すことで、様々な「白」を主観的に表しているのである。

5. 『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式の通時研究

石鏡（2010:247-248）は、形容詞 ABB 式重疊式の発展の趨勢は、連語から語彙化になると指摘している。張美蘭（2001：7）は、「後綴 ABB 形容詞」は少なくとも唐代にすでに現れたと指摘する。試みに、『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式を BCC コーパスと CLL コーパスで検索し、また、文昌榮の『描摹詞辭典』を参考にし、最初に『紅樓夢』が初出である可能性がある例語を見てみよう。

コーパスで検索した結果、「涼森森」「甜絲絲」「白汪汪」「意綿綿」「油汪汪」「烏壓壓」「直瞪瞪」「牙癢癢」「鹹浸浸」「散松松」「直蹶蹶」「羞慚慚」「怔呵呵」の13語は、『紅樓夢』以前の著作に使用例が見えない。これらの ABB 型形容詞重疊式は、清人の曹雪芹の『紅樓夢』から使い始められた可能性が高い。

6. 終わりに

『紅樓夢』前八十回における ABB 型形容詞重疊式は多様である。A は、名詞性語素、動詞性語素、形容詞語素を分け、BB は接辞と語根を分ける。特に、A は五感と繋がる感覚形容詞が総数の3分の1を占める。A と BB の関係によって、ABB 型形容詞重疊式の構造式を派生式、後補式、主述式に分ける。『紅樓夢』における ABB 形容詞重疊式は、連体修飾語とする用法が最も多く、次に連体修飾語と述語となる。意味について言えば、描写性、量の程度性、主観性をもっている。通時的観点から、13例の ABB 型形容詞重疊式は、『紅樓夢』が初出であると考えられる。

注：

(1) 復疊之前的形式稱為“基式”，復疊之後的形式稱為“復疊式”。根據語表形式，還可以將復疊分為完全復疊和不完全復疊、直接復疊和間接復疊、加疊、對疊、回疊、反疊等。完全復疊是將基式的所有成分都進行復疊的方式。除了多次重疊之外，完全復疊主要有三種：AA 式、AABB 式、ABAB 式。不完全復疊是將基式的部分成分進行復疊，主要有三種復疊方式：AAB 式、ABB 式、BAA 式。李宇明（2000：88、91、93）

(2) 梁揚 謝仁敏（2006：8）『紅樓夢語言藝術研究』人民文學出版社

引用書目：

（前八十回）曹雪芹著（後四十回）無名氏續 程偉元 高鶚整理（2008）『紅樓夢』人民文學出版社

付録：

以下は『紅樓夢』における ABB 型形容詞重疊式例語で、数字は使用頻度を表す。

- | | | | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 1、亂烘烘 ² | 2、蕩悠悠 ⁴ | 3、意懸懸 ¹ | 4、跳躑躑 ¹ | 5、昏慘慘 ² | 6、氣昂昂 ² |
| 7、威赫赫 ² | 8、白茫茫 ¹ | 9、鬧吵吵 ¹ | 10、涼森森 ¹ | 11、顛巍巍 ² | 12、光燦燦 ¹ |
| 13、沉甸甸 ² | 14、甜絲絲 ² | 15、空落落 ² | 16、硬幫幫 ¹ | 17、汗津津 ¹ | 18、靜悄悄 ⁴ |
| 19、白漫漫 ¹ | 20、黑魃魃 ¹ | 21、白汪汪 ¹ | 22、花簇簇 ¹ | 23、情切切 ¹ | 24、意綿綿 ¹ |
| 25、黑鬢鬢 ¹ | 26、油汪汪 ¹ | 27、明晃晃 ¹ | 28、好端端 ⁶ | 29、熱刺刺 ² | 30、烏壓壓 ⁵ |
| 31、笑吟吟 ¹ | 32、直瞪瞪 ² | 33、冷清清 ⁴ | 34、赤條條 ³ | 35、白花花 ² | 36、醉醺醺 ¹ |
| 37、忙碌碌 ¹ | 38、錦重重 ¹ | 39、金晃晃 ¹ | 40、直挺挺 ³ | 41、黃澄澄 ² | 42、油膩膩 ³ |
| 43、牙癢癢 ¹ | 44、鹹浸浸 ¹ | 45、笑吹吹 ² | 46、寒浸浸 ¹ | 47、氣恨恨 ¹ | 48、氣狠狠 ¹ |
| 49、散松松 ¹ | 50、惡恨恨 ¹ | 51、松怠怠 ¹ | 52、鬧穰穰 ¹ | 53、碧茈茈 ¹ | 54、明亮亮 ¹ |
| 55、戰兢兢 ¹ | 56、直蹶蹶 ¹ | 57、亂紛紛 ² | 58、熱騰騰 ¹ | 59、冷颼颼 ¹ | 60、眼睜睜 ² |
| 61、笑嘻嘻 ¹⁷ | 62、喘吁吁 ⁵ | 63、羞慚慚 ¹ | 64、怔呵呵 ¹ | | |

参考文献

相原茂 韓秀英（1990）『現代中国語 ABB 型形容詞逆配列用例辞典』くろしお出版

大島吉郎（2005）「動詞重疊詞に関する通時的研究——《脂硯齋重評石頭記》庚辰本を中心に」『大東文化大学紀要』第 43 号

王安ほか（2019）「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考える——性質形容詞よその重ね型を中心に」『日本認知言語学会論文集』第 19 卷

北原保雄（2010）『日本語の形容詞』大修館書店

胡春艷（2020）『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式について——AA 型を中心に』『外国語学会誌』第 50 号

胡春艷（2021）「中国語の形容詞と程度副詞の関係性——『紅樓夢』前八十回を中心に」東アジア国際言語学会第 8 回大会 口頭発表レジュメ

山梨正明（2012）『認知意味論研究』研究社

黃伯榮 廖序東（1991）『現代漢語』高等教育出版社

黎錦熙（1959）「漢語構詞法和詞表研究」（下）『北京師範大學學報』第 6 期

呂叔湘（1980/2016）『現代漢語八百詞』商務印書館

李宇明（2000）「漢語復疊類型綜述」漢語重疊問題國際研討會 邢福義（2009）『華中學語論庫（第二輯）——漢語重疊問題』華中師範大學出版社

李勁榮（2014）『現代漢語形容詞生動形式的語用價值』中國社會科學出版社

賈彥德（1988）「漢語 XYY 型詞的義位」『語文研究』第 2 期

- 沈家煊 (1995) 「“有界”與“無界”」『中國語文』第5期
- 沈家煊 (2015) 「漢語詞類的主觀性」『外語教學與研究』第47卷第5期
- 石録 (2010) 『漢語形容詞重疊形式的歷史發展』商務印書館
- 邵敬敏 (1990) 「ABB式形容詞動態研究」『世界漢語教學』第1期
- 王力 (1943/1985) 『中國現代語法』商務印書館
- 文昌榮 (1997) 『描摹詞辭典』中國青年出版社
- 張壽康 (1985) 『構詞法和構形法』湖北教育出版社
- 張美蘭 (2001) 『近代漢語後綴形容詞詞典』貴州教育出版社
- 趙青青 (2021) 「通感隱喻視角的現代漢語 ABB 式狀態形容詞」『世界漢語教學』第2期第35卷
- 朱德熙 (1982) 『語法講義』商務印書館